



# さんぽ木だより

2013  
夏号  
vol.5

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

つゆくさのつゆが光るとき

つゆくさのつゆが

曼陀羅のように

朝日に光るとき

生きていることの喜びを

しみじみと感ずる

日が昇るにつれて

光の角度がちがひ

つゆは少女の目のように

清くキラキラと輝く

そういうひとときを

一生知らずに終わる人もあろう

可憐な紫色のつゆくさの花が光る

大地の愛を身につけてゆこう



館長エッセイ

開館一周年を迎えて

わざわざ足を運んでくださる方により一層喜んでいただける工夫と努力

真民詩とわたし

魂を育てていただきました

青木 梨花さん

真民詩を読み解く④

貧しくて体の弱い父親の切々たる思い  
「三人の子に 晴着」

ちょっと手ほどき

吉田時代をもっと知ろう

～<sup>かいこう</sup>厳しい求道、そして、運命の人との邂逅～

企画展のお知らせ

ミュージアムショップ拝見

## 【第五回】開館一周年を迎えて――

### わざわざ足を運んでくださる方に より一層喜んでいただける工夫と努力

をたくさんいただき、私たちも2年目に  
向かって頑張らなければと決意を新た  
にしております。

さて、この1年間の振り返り、私なり  
の反省と今後の課題を書いてみたいと思  
います。

このような記念館の運営をまったく  
経験したことがない私が、いきなり館長  
としてすべてを任せられ、相談する人も無  
く、手探りで何とか1年を迎えることが  
出来たのも、当館職員の皆さんと役場の  
方々、そして温かく見守ってくださった  
真民ファンの皆様のご支援があったから  
こそであり、本当に感謝しております。

2年目に向けて、来館者の方々から  
いただいた厳しいお言葉や指摘を真摯に  
受け止め、説明不十分の所はもつと丁寧  
に説明し、改善すべき点は出来るところ  
から速やかに対応していくことが皆様へ  
のお答えになるものと考えています。

これからはこの一年のたくさんの方の失  
敗経験とその反省を生かして、職員一人

ひとりが着実に一歩ずつ前に向かって進  
んで行きたいと考えています。

この記念館の果たすべき役割とは何か  
ということ、私なりに考えてみますと、  
本来的には、坂村真民の詩の魅力、心安  
らぐ詩の世界を全国に発信するセンター  
としての機能であると考えます。しかし  
日常的には、来館された方が静かに真民  
の詩と向き合って、「心が安らぎ、気持ち  
が落ち着いた」と言ってくくださる場所  
であることを目指しています。

今後も、全国からわざわざ来て下さ  
った方々に、「真民さんに会えて良かった、  
元気をもらいました、また友達を連れ  
て来ます」と言ってくくださるような、作  
品の展示や展示構成を心掛けるととも  
に、職員の一層のおもてなしの心での対  
応にも努力したいと思っています。

今後の課題としては、まだまだ真民  
を知らない方や真民詩を読んだことの  
無い方たちに、どうすれば真民詩の魅力  
を伝え、この記念館まで足を運んでもら

えることが出来るのか、また、全国の真  
民ファンの中には、記念館が出来たこと  
をまだ知らない方がおられ、その方々に  
どうお知らせするか、等々に取り組む必  
要があると思います。

しかし、これも、お金を使って広く広  
告宣伝をすれば簡単なのですが、財政  
的にも厳しい自治体の記念館では、お金  
のかからない方法で知恵を絞っていくし  
かありません。そのためには、やはり、来  
館者の「口コミ」が一番です。来館者の  
方々の周りから少しづつ真民ファンを増  
やしていくことを大切にしていきたいと  
思います。

また、マスコミ等の有効な活用を考え  
たり、各種団体が開催する研修会・講演  
会等にも積極的に向き、真民詩の魅力  
をPRしたりすることも大事だと思っ  
ています。今年も全力で邁進しますので、  
どうぞ温かいご支援をお願いします。



▲相田みつを美術館館長 相田一人氏

東日本大震災から2年目が経過し、  
この記念館も1年が過ぎました。

開館1周年記念特別企画展として開  
催した、相田みつをさんとのコラボ展は、  
おかげさまで、たくさんの方（9792  
人）に来ていただき、無事終了いたしま  
した。真民詩を知らない若い方やこれま  
で来たことがない方々からも、真民詩に  
対する好意的な感想と記念館へのエール





## 魂を育てていただきました

青木 梨花さん(92歳)



兵庫在住の人形作家である青木梨花さんは、宇和島に住んでいた時、人形が縁で真民さんと出会った。小さな木のお札とともに真民さんから贈られた「梨花」の号を慈しみ、高齢のため思うにまかせぬ身体で今も人形づくりに取り組んでいる。

### ◆人形がつないだ縁

坂村先生に初めてお会いしたのは60年ぐらい前でしようか。宇和島市文化祭で人形をご覧になった先生がわが家を訪ねてこられ、「感動した」と言ってくれました。癖のある長めの髪が印象的な方でした。ほどなく、「お守りに」と木のお札とともに「梨花」という雅号をくださったんです。

人形づくりは20代なかばからです。病後の手すさびで身近な布で人形を作ってお友達に差し上げたなら、しだいに「作ってみたい」という人が増え、自宅で教えるようになりました。端切れなどを使った安上がりな人形でしたが、他の教室の立派な人形と一緒に市の文化祭などにもグループで出展させてもらい、のちに先生の奥様の久代さんも生徒さんになりました。

昭和30年のグループ展の際に、宇和島市民合唱団の方の作曲による「人形創りの歌」を贈ってくださったこと。また、以前からお付き合いのあった砥部の陶人形作家・森元青芳<sup>もりもとせいほう</sup>さんを先生にご紹介できたことなど、先生にまつわる思い出は尽きません。

### ◆祝福された洗礼

先生の詩は気取りがなくて、わかりやすい言葉で書かれてますでしょ。お人柄



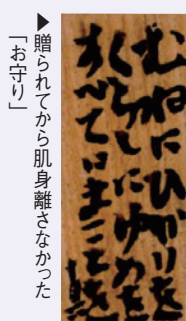
▲昭和40年に松山ブランタン画廊で開催された初個展にて



「光」  
(平成5年、三田市美術展文化賞)



▲夫の常吉さんと丹精込めて造った庭は真民さんのお気に入りの場所だった



▶贈られてから肌身離さなかった「お守り」

もそのまま、いつもニコニコされた、本当に優しい方でした。40代で私がカトリックの洗礼を受けることを決心した時も、「行きつくところへ行きつかれましたか。おめでとうございます」と、先生は奥様と一緒に大変喜んでくださいました。

### ◆雲に隠れたおひさま

先生と相前後して、私たちも宇和島から砥部のご近所に引っ越しました。手づくりの小さな庭を先生は大変お気に召され、大切なお客様は必ずわが家にお連れして、一緒にお茶を楽しみました。65歳で兵庫に移ってから、お付き合いが絶えることはなかったですね。私の行く先をいつも照らしてくださいましたので、先生が亡くなられた時は、まるでおひさまが曇ったようでした。「むねにひかりをくらしにゆめをすべてにまことを」——先生の「お守り」が私の魂を育てていただきました。

貧しくて体の弱い父親の  
切々たる思い

## 「三人の子に 晴着」

### 三人の子に

#### 3 晴着

お前たちが

嫁ぎゆく晴れの日まで

わたしは生きているだろうか

財産もない

故郷もない

家もない

不幸なお前たちに

せめては父のこころばかりの

晴着をきせてやりたいのだが

それまでわたしは

生きながらえているだろうか

梨恵子よ

佐代子よ

真美子よ

嫁ぎゆく日の夕べ

もしも裳裾ひく

くれないの雲が

たなびいていたら

貧しかった父の

せめてもの門出の

祝いものとして

晴れの衣を染めて

嫁いでいつてくれないか

この詩は、昭和28年3月発行の第3詩集「かなしきのうた」に載せられている詩です。「1知らせておきたいこと」、「2枕もとで」、「3晴着」の3篇から構成される詩ですが、この「3晴着」が、真民の3人の娘に対する気持ちが一番よく表れている詩です。

この詩を作った時、真民は42歳で、詩の中に出てくる3人の娘は、まだ小さく、長女梨恵子が7歳、次女佐代子が5歳、三女真美子が2歳でした。

昭和25年4月に三瓶から吉田に転勤してきた真民は、この吉田で臨済宗妙心寺派専門道場のある大乗寺<sup>だいじょうじ</sup>を知り、そこで参禅の決意をし、修行を始めた時期に当たります。

厳しい禅の修行を自分自身に課し、食事や肉や魚を極力食べないという生活の中で、真民の体は衰弱していました。

そういう時期に作られたこの詩は、体が弱くて、自分ではとうい娘たちが、成人して、結婚する頃までは生きておれないだろうという真民の切実な気持ちが表現されています。

真民は、3人の娘たちが、結婚し、花嫁衣裳を着る姿を、本当に見ることは出来ないと思っていました。そういう父親の何とも言えない悲しみの気持ちを表現したのがこの詩です。娘を持つ父親の愛情が

あふれるばかりの詩ではないでしょうか。貧しい父親からの、せめてものはなむけに贈る、精一杯の心を込めた詩です。「晴れの衣を、紅の雲で染めて、嫁いでいつてくれないか」という最後のフレーズは、子を持つ親として、この詩を読みたびにいつも涙が滲む<sup>にじ</sup>ところです。

坂村真民の、3人の娘たちへの思いが、哀しいまでに伝わってくる、娘たちのことを詠った真民詩の中でも最も感動的な詩の一つであると言えます。



昭和26年5月 真美子の誕生日に



ちょっと  
手ほどき

# 吉田時代をもっと知ろう

「厳しい求道、そして、運命の人との邂逅」

真民さんは40代の6年間に愛媛県吉田町（現・宇和島市吉田町）で暮らしました。厳しい求道の果てに半盲となり、内臓も患って生死の境をさまよう日々。そんな中で不思議なめぐりあいがありました。



## 詩と禪との厳しい戦い

真民さんは吉田町に移って臨済宗妙心寺派の大乗寺を知り、ぐらつきがちな自分を鍛えるために、早朝の参禅を日課としました。この時から詩と禪との厳しい戦いが始まりました。

死のうと思う日はないが  
生きてゆく力がなくなることがある  
そんなとき大乗寺を訪ね  
わたしはひとり  
仏陀の前に坐つてくる  
力わき明日を思う心が  
出てくるまで坐つてくる

重い心で生きていたこの頃、仏教に傾倒していた真民さんは、自らの心の眼をあけようとしたあまり、眼病と内臓の病を患い、床に伏せるようになります。「念ずれば花ひらく」という母が口ずさんでいた言葉が、天佑のように口をついて出たのはこの頃でした。大東出版社

主だった岩野喜久代さんは次のように書いています。

※1 「念ずれば花ひらく」何と美しく爽やかなよい言葉であろう。この言葉の中には絶対のゆるぎもない信の香りが立ちこめている。純粹で無垢、母の乳房に顔を埋めて、満ち足りた幼児の姿がある。

母親は誰にとっても特別な存在ですが、真民さんにとってはひととき大きな存在で、「わたしも母の一途一念を身に付け、念ずれば花ひらくという母の願いを、わたしの詩の骨髄として励み、八字十音の真言を、タンポポの種のように飛ばして…」と随筆集に記しています。



## 特別な人との特別な出会い

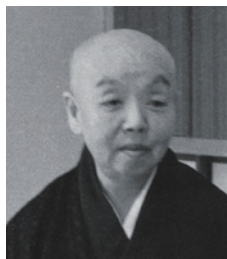
この時代は人生の師にも出会いました。その一人、杉村春苔尼さんについて、真民さんは多くの詩や文章を残しています。「わたくしはこのお方にめぐりあつたことによつて自分が変わりました。世界

が変わりました。このお方にめぐりあわなかったら、本当に仏の心も仏の道もわからずに終わつたであらうでしょう」

※2 高い教養と学芸を身につけた春苔尼さんは数奇な人生を歩んだ女性で、人の病気をそっくり自分の身に引き受ける霊能者でした。真民さんと親交の深かった紀野一義さんは、春苔尼さんのことを「しんみんさんにとつて救世主であり、師であり、友であり、マリア様であり、観音さまであり、透明な恋慕の対象であつた」と捉えています。

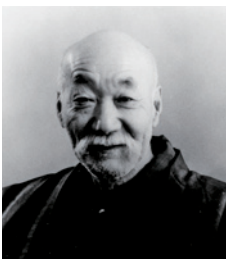
真民さんは春苔尼さんから、仏の大きな慈悲の世界を知り、現世をいかに清く過ごすか学んだのでした。

もう一人の師は、薬草学に造詣の深い利根白泉さんで、真民さんは、天地と呼応し人間世界を超脱して生きる「偉大な隠者」と讃えました。



杉村春苔尼

こうした方  
たちに助けら  
れて病は癒え、  
暗闇の中に一  
筋の光を見つ  
け、新しい世界  
に踏み出した  
のが吉田時代  
だったのです。



利根白泉

筋の光を見つ  
け、新しい世界  
に踏み出した  
のが吉田時代  
だったのです。

## 吉田時代のポストカード

坂村真民記念館ミュージアムショップでお求めください。



「吉田時代」  
ポストカード3枚セット  
(315円)

「ハイと覚えそめた真美子に」  
「三人の子に」  
「せいさんだからといって」



「かなしみ」1枚105円



「夕空」1枚105円

※1 「さかむらしんみんさんの風光」(仏教タイムス社)

※2 「白鳥(しらとり)の歌びと—坂村真民」(柏樹社)

# 「吉田時代の坂村真民 ～参禅の日々と大いなる人との出会い～」

期間 平成25年 5月19日(日)～9月23日(月・祝)

## 家族と生徒を愛し共に過ごした日々



坂村真民は、昭和25年4月から昭和31年3月までの6年間に県立吉田高校の教師として勤務し、学校の敷地内にあった教員住宅に家族と共に住んでいました。

三瓶時代の最後の年に、20年間続けた短歌に別れを告げて詩に転じる決心をしますが、この転身の最大の理由は、「真実の自己とは何ぞや、という疑問を持ち始め、真の人間としてどう生きるか、という宗教への思いが大きくなったからである」と言っています。

そういう気持ちを持ちながら、三瓶から吉田にやってき



▲大乘寺にて(山下照山さん、澤井進堂さん)1952年

た真民にとって、ここで、運命的な出会いがありました。

吉田の禅寺・大乘寺で山下照山さんとの出会い、河野宗寛老師とも出会い、昭和26年7月25日からここでの参禅・修行が始まります。さらに、山下照山さんを介して、真民のこれからの人生を大きく左右する、杉村春苔<sup>すぎむらしゅんたいに</sup>先生と利根白泉<sup>とねはくせん</sup>先生のお二人の方との出会いも吉田で生まれました。

悲しい出来事としては、昭和28年5月に母タネが亡くなったのも、この時代でした。

一方、学校の教師としての真民は、相変わらず教科書はほとんど使うことなく、自分の好きな短歌、詩、小説を朗読するという独特のスタイルの授業を行っていましたが、生徒と共に学ぶという考え方で生徒に接し、生徒からも慕われる憧れの先生でした。

坂村真民にとって、吉田時代は病との闘いの時期でもありましたが、それも克服し、生涯で本当に充実した時期であったと言えます。

今回の企画展は、そういう吉田時代の真民に影響を与えた方々を紹介するとともに、その時代の代表的な詩を展示紹介しています。



### 初雪杯

坂村真民記念館のそばにある蔵元・協和酒造で製造。涼しげで洒落た感じと手軽な価格がお土産に喜ばれています。

- ◆「今」ゆず酒 180ml 550円
- ◆「花」七折梅酒 180ml 500円
- ◆「一期一会」にぎり酒 180ml 500円
- ◆「ねがい」本醸造 180ml 500円



### ペーパーウェイト

真民さん直筆「夢」「愛」「風」を使った木のペーパーウェイト。開館1周年を記念して作られました。ペン立てとしても重宝します。製造は宗友福祉会。2100円。

注目!!

ミュージアム  
ショップ

拝見  
人気モノを紹介します!





## 経営理念

最大の会社より最良の会社  
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『疑えば花ひらかず  
信心清浄なれば  
花ひらいて仏を見たてまつる』

この出典を探すために真民先生は『大蔵経』を3回読まれたと本(柏樹社-愛の道しるべ)で読んだ。  
一途一心という言葉のお手本であると思います。  
『晩三吉』という日本一うまい梨を食べたいものだ!

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫  
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp/> メール kao@nagiso.co.jp

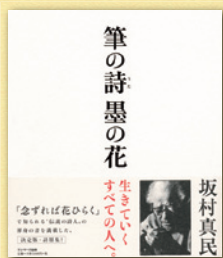


医療法人 誠志会  
**砥部病院**

歴史と川  
歴史は川だ  
下へ下へと  
流れてゆき  
そして最後は海へ  
海は母  
そこにはもう差別はない

〒791-2114 愛媛県伊予郡砥部町麻生40-1 TEL089-957-5511

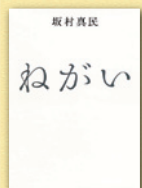
坂村真民記念館  
所蔵の作品を満載!



定価=3675円(税込)

## 筆の詩墨の花

サンマーク出版



ねがい

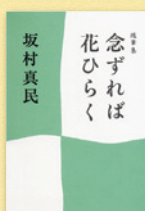
東日本大震災復興  
への祈りをこめた  
特別版詩集。

定価=998円(税込)

随筆集 念ずれば花ひらく  
随筆集 めぐりあいのふしぎ  
随筆集 愛の道しるべ

定価=各1890円(税込)

## 坂村真民の本



詩集 二度とない人生だから  
詩集 宇宙のまなざし



定価=各1050円(税込)



刊行後15年で  
9.3万部の  
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

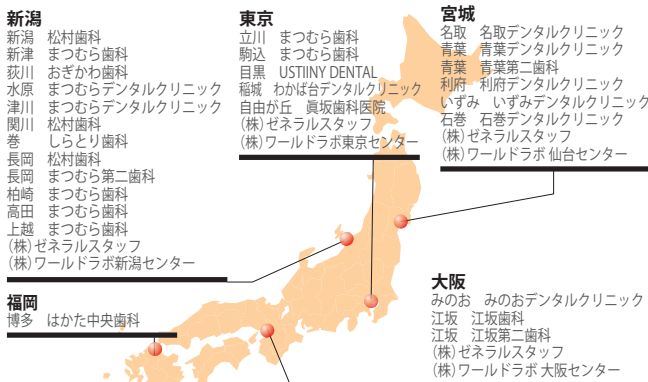
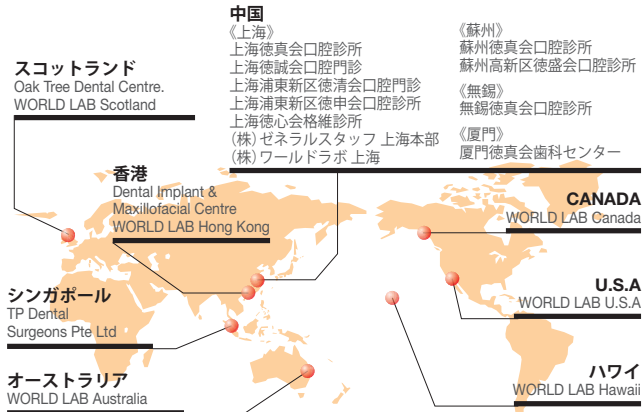
サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>  
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ

# 医療法人 徳真会グループ

「医療は人なり」の診療概念をもとに患者第一主義の歯科医療グループです。  
国内外36ヶ所の歯科医院を展開し、年間80万人の治療に携わっております。



## 新潟

松村歯科 新潟診療所  
まつむら歯科 新潟診療所  
おぎかわ歯科  
まつむらデンタルクリニック 水原診療所  
まつむらデンタルクリニック 津川診療所  
松村歯科 関川診療所  
しらとり歯科  
松村歯科 長岡診療所  
まつむら第二歯科 (長岡市)  
まつむら歯科 柏崎診療所  
まつむら歯科 高田診療所  
まつむら歯科 上越診療所

☎025-201-1885  
☎0250-24-6688  
☎0250-23-4880  
☎0250-62-2151  
☎0254-92-0150  
☎0254-64-1201  
☎0256-72-1771  
☎0258-28-4108  
☎0258-31-7202  
☎0257-20-0310  
☎0255-521-6780  
☎0255-522-6001

## 宮城

いずみデンタルクリニック  
青葉デンタルクリニック  
青葉第二歯科  
利府デンタルクリニック  
名取デンタルクリニック  
石巻デンタルクリニック

☎022-253-1588  
☎022-348-2125  
☎022-348-1085  
☎022-766-4130  
☎022-381-0921

## 大阪

江坂歯科  
江坂第二歯科  
みのおデンタルクリニック

☎06-6386-0233  
☎06-6310-7660  
☎072-749-2080

## 東京

まつむら歯科 駒込診療所  
まつむら歯科 立川診療所  
USTINY (アスティーニ)  
わかば台デンタルクリニック

☎03-3949-8818  
☎042-538-1088  
☎03-6431-8633  
☎042-350-5671

## 福岡

はかた中央歯科

☎092-892-5134

## 中国

廈門徳真会歯科センター  
上海徳真会口腔診所  
上海徳誠会口腔門診  
上海浦東新区徳清会口腔門診  
上海浦東新区徳申会口腔診所  
上海徳真会格維診所

☎86-592-2290088  
☎86-21-5208-0208  
☎86-21-6340-0290  
☎86-21-5030-7858  
☎86-21-6856-1040

《蘇州》  
蘇州徳真会口腔診所  
蘇州高新区徳盛会口腔診所  
《無錫》  
無錫徳真会口腔診所  
《廈門》  
廈門徳真会歯科センター



## 株式会社ゼネラルスタッフ

本 社 025-201-1183  
新津本部 0250-25-2016  
東京本部 03-6431-9809  
大阪本部 06-6310-6066  
上海本部 86-21-6340-0316

## 株式会社ワールド・ラボ

新津センター  
大阪大阪センター  
仙台センター  
東京センター  
WORLD LAB U.S.A.  
Ultimate Styles Dental Laboratory  
徳真会歯科制作(上海)有限公司

☎86-512-6763-5720  
☎86-512-6803-2501  
☎86-510-85281121  
☎86-21-6289-8101

☎0250-23-2009  
☎06-6190-2660  
☎022-348-1206  
☎03-6431-9239  
☎1-949-727-0121  
☎1-949-727-0822  
☎86-21-5270-1325



医療法人  
徳真会グループ

徳 真 会

検 索



www.tokushinkai.or.jp

## 坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

**パスポート会員** 特典 会員証で入館無料1人 ほか  
年会費2000円

**一般会員** 特典 会員証で入館無料1人 ほか  
年会費5000円

**特別会員** 特典 会員証で入館無料2人 ほか  
年会費10,000円

**法人会員** 特典 会員証で入館無料2人、  
年会費10,000円 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください 坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉 5月19日から「吉田時代の坂村真民」展が始まっています。坂村真民が詩人として生きるため参禅を決意した大乘寺や杉村春吾先生との出会いも吉田で始まりました。吉田での生活と真民詩との関わりをより深く理解するための展示構成となっています。是非お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、どうぞ記念館にお出かけ下さい。(西)

## タンポポだより vol.5 夏号

平成25年6月1日発行 表紙写真：西澤孝一

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内  
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

## 〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、  
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり